

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1(高等学校)

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	佐賀県立唐津東高等学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>○生徒が主体的に学習し、自己の適性の発見と進路目標の達成につながるような授業を実践していく。また、ICTを有効に活用し、学力向上につながる教科指導の研究と実践に努めていく。</p> <p>○生徒の進路希望実現のため、新テストに向けた進路情報の収集と共有、および推薦入試やAO入試にも対応できる指導体制を構築する。</p> <p>○いじめ、不登校、学力不振や集団への不適応等について、生徒理解に努め、定期的な会議の中で情報の共有と対応策を具体的に考えていく。</p> <p>○生徒の交通事故や怪我、熱中症による体調の急変、感染症など、生徒に関する危機管理について、特に迅速な対応について意識を高め、安全な学校環境作りを努める。</p> <p>○SNSによる犯罪に巻き込まれないように、スマートフォンの使い方については、イレブンセブン運動なども推進し、家庭と連携しながら生徒の生活習慣の改善を図っていく。</p> <p>○本校の中高一貫教育「19の方策」を実践するとともに、継続的な検証や見直しに取り組む。</p>
2 学校教育目標	校訓「光 力 望」のもと、「自主自律」の精神を培い、知・徳・体の調和のとれた、地域や国際社会の発展に貢献する、高い知性と志を備えた、心身ともに逞しい生徒を育成する。
3 本年度の重点目標	<p>①生徒一人ひとりの進路希望の実現</p> <p>②わかる授業実践と授業改善への取組</p> <p>③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実</p> <p>④グローバル人材、チャレンジ精神を持った生徒の育成</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)					
●学力の向上	○基礎学力の向上	○評定5の生徒の割合を45%以上とし、評定2以下の生徒の割合を3%以下とする。	・授業改善を行い、分ける授業を実践するとともに、効果的な課題を与える。 ・電子黒板、学習用PCを用いて効率よく授業を行う	B	・評定5の生徒の割合は45.0%、評定2以下の生徒の割合は4.7%だった。目標としていた3%に届かなかった要因の1つは、家庭学習が十分ではないことが考えられる。さらに指導を充実させていきたい。	B	・目標達成が十分でなかった要因の一つが家庭学習にあるのならば、家庭学習を充実させるための対策を授業づくりの中で考えてほしい。生徒一人ひとりに目を配り、熱心に授業をなされる先生方を応援しています。 ・家庭学習の不足は、部活動とのバランスが悪い生徒がいるということ。原因がわかっているのならば対処できるはずだと思います。
	○進路実現を見据えた学力の向上	○国公立大学の合格者数を130名以上とする。 ○東京大学、京都大学の合格者数を合わせて3名以上、九州大学の合格者数を20名以上とする。 ○大学入試問題研究会や進路指導研究会等への参加人数を延べ20名以上とする。	・進路検討会や学力分析会を行い、進路・学年・教科との連携を図る。 ・「進路だより」、「進路のしおり」を発行し、進路情報の提供に努める。 ・「大学出前講座」、「九州大学訪問」、「東京研修」等を開催する。 ・大学入試問題研究会や進路指導研究会等の研修会への参加を通して、指導力向上と的確な進路情報の掌握に努める。	B	・進路検討会や学力分析会を行い、進路と学年の連携はできた。さらなる教科指導の意識向上を図っていきたい。 ・「進路だより」、「進路のしおり」は予定通り発行し、進路情報の提供に努めた。 ・コロナ禍により、校外行事のほとんどは中止、縮小とした。講演会等、オンライン活用を推進した。 ・大学入試問題研究会等の研修会への参加もオンラインを主とした(参加者13名)。 ・国公立大学合格者は134名。東大1名、九大12名、国立大学医学部3名(佐大2、長大1)、国立大学薬学部2名(九大1、熊大1)。(現役生のみ)	A	・生徒、保護者ともに最も関心を寄せる場所です。コロナ禍の中、未曾有の事態が続きますが、これまで学校が培ってきた経験や実績を生かして、これまで以上に生徒一人ひとりに寄り添って欲しい。 ・厳しい環境の中、オンライン講演会等、ICT機器を使ってよく指導をされている。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観、正義感、感動する心を持つ生徒の割合を90%以上にする。	・学校祭のクラス展示やバザー、クラスマッチ、修学旅行、ボランティア活動、芸術鑑賞会等の特別活動を通して、豊かな心を身に付けさせる教育活動を行う。	A	・自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観、正義感、感動する心をもって行動することを心がけている生徒の割合は95%だった。	A	・特別活動に限らず、全教科・領域、日常の生徒とのやり取りの中など、全ての先生方の意識的な取り組みを継続して欲しい。 ・生徒一人ひとりに対して、きめ細かい配慮がなされていると思います。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止基本方針にもとづいて対応できる職員を90%以上にする。	・いじめに関する職員研修を実施する。 ・いじめ防止基本方針にある「いじめ未然防止の取組」、「いじめ早期発見の取組」に努める。	B	・いじめに関する職員研修は4月、7月、12月に実施した。 ・職員対象のアンケート結果は以下のとおり。定義・教職員の責務を理解している:90% 生徒の窓口としての役割を担っている:80% 記録共有を行っている:85% 直ちに報告相談している:85% ・職員研修によるいじめの定義の正確な理解、早期発見の努力の結果、今年度のいじめの認知は3件であった。	A	・学校全体で取り組んでいて好感が持てる。この問題の解決の鍵は、先生が生徒の相談相手になりえているか、言い換えると先生が生徒に信頼されているかということにあると思います。これからも、生徒の心の変化や悩みが気づく目を磨いていただきたい。 ・いじめの法律上の定義に驚いた。早期発見の努力とフォローがよくなされている。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒を80%以上にする。	・佐賀を誇りに思う講演会を実施する。 ・鏡山登山や唐津城までのウォーキング等、ふるさとを体験する行事を実施する。 ・総探の時間で「佐賀に関する研究」を実施する。	B	・コロナ禍で登山やウォーキング等は中止したが、講演会は3年生対象で実施した。総探の時間の「佐賀に関する研究」も予定の時間数を実施することができた。 ・12月に行ったアンケートで、「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒は、第1学年が67%、第2学年が72%、第3学年が77%、全体で72%と、1学期(70%)と比較して微増であった。	B	・唐津の人間としては、佐賀県よりも唐津に対する愛着の方が大きいのは事実であり、佐賀県を誇りに思っている生徒が予想以上に多いと感じた。佐賀県の魅力を県を挙げて発信していけば、もっと数字は向上するであろう。 ・総探の「佐賀に関する研究」は効果的だと思う。鏡山、唐津城、虹ノ松原に囲まれた恵まれた環境の中での取り組みに期待している。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を90%以上にする。	・食育の推進を図る。 ・食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりを発行する。	A	・12月に行った高校2年生を対象とした健康に関するアンケートにおいて、「健康であるために食事をしっかりとることは大切・やや大切」という回答は99.5%であった。 ・毎月発行している保健だよりの中で、食中毒の予防について取り扱った。	A	・自己管理は当然大切ではあるが、食育については親の認識が重要であり、本来は家庭で担うべきものではないか。 ・「健康に食事は大切である」とは小学生でもわかる当たり前のことではあるが、問題はそれが実行できているかどうかである。高校卒業後は多くの生徒が親元を離れることになるので、例えば朝ごはんに限って食事の内容等、一歩踏み込んだ指導もあっていいのではないかと。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外在校時間の上限を周知する。 ・職員の在校時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・部活動について効果的かつ十分な休養日を設定する。また、外部人材の活用を進める。	B	・上限時間は4月に全職員に周知したほか、業務記録票の提出時にも時間外勤務が多い職員に対して行った。 ・時間外勤務が80h/月を超過した者は延べ10名で、時間外勤務の一人当たりの平均は39.0h/月であった。また、1ヶ月当たりの上限時間(45h)を超過した者は延べ173名(28.6%)で、年間の上限時間(360h)を超過したものは40名(72.7%)であった。 ・週2日の部活動休養日は、年間全体で見るとすべての部で実施することができた。また、今年度は運動部外部指導者3名(弓道・男女バレーボール部)を活用した。	A	・上限時間を全職員に周知し、外部人材の活用を進める等、先生方の健康維持のための努力がなされている。一方、駐車場には土日はもとより、毎晩遅くまで車が止まっていることも事実であり、頭が下がる。学校として環境を整える努力は十分感じられるので、あとは先生方の自己責任でやられているものと思うべきであろう。 ・熱意・責任感と家庭での役割・休養の板挟みの先生方も多いものと思う。今が過渡期だと思います。 ・先生方の職務は本当にきりが無いと思います。ストレスの解消には十分に努めてください。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・基礎学力の向上については、概ね目標を達成することができた。次年度も電子黒板や学習用PCを活用しながら、学力向上につながる教科指導の研究と実践に努めていきたい。大学入試の結果についても、概ね目標を達成することができた。次年度も大学入試問題研究や進路指導研修をより充実させ、教科指導力の向上と進路情報の掌握に努め、生徒の進路希望の実現を図ってきたい。</p> <p>・心の教育、健康・体づくりについては、目標を概ね達成することができた。次年度も豊かな心を身に付ける教育、佐賀への思いを醸成するための教育活動等の充実を図ってきたい。また、いじめについても、すべての職員が基本方針を理解し、それに基づいて行動することで、引き続き早期発見、早期対応に努めていきたい。</p> <p>・業務改善、教職員の働き方改革については、当初予定していた具体的取組についてすべて実施したが、目標達成には至らなかった。次年度は目標達成に向けてより効果的な取り組みを検討してきたい。</p>
----------------	---